

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 講師

氏名 久世明香

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

人間社会と密接に関わる伴侶動物を中心に、動物の行動やメカニズム、人間社会における相互作用や動物の役割について学生が理解し、愛玩動物看護師あるいは獣医師として動物及びその飼い主への対応力を習得することを教育責任として、講義および演習を担当している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物人間共生論	動物応用科学科	必修	1	147
動物看護学概論	獣医保健看護学科	必修	1	78
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必修	1	78
愛玩動物学	獣医保健看護学科	必修	1	78
人と動物の関係学	獣医保健看護学科	必修	1	78
動物行動学	獣医保健看護学科	必修	1	77
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	3
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	3
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅲ	獣医学科	必修	4	133

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

動物の行動は、遺伝・経験（学習）・環境が相互に影響し、表出されるものである。当然、個体差が存在し、動物にとって正常な行動であっても、人間社会では問題視されることもある。動物が行動を示す理由をできるだけ論理的かつ客観的に説明することは、現代社会における動物に関連した問題の根本的な解決方法の考案および実践に必須であり、新たな謎の発見とさらなる動物の理解につながると考えている。また、動物の情動や学習といった行動のメカニズムは、私たち人間にも共通することから、他者を理解し、コミュニケーションや共同作業を円滑に行うことにも貢献できると期待している。このような「考える力」と「動く力」を備えることは、実社会での活躍に大いに役立つと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

・「考える力」を育てるための取り組み

論理的に考える過程を重視するため、まず具体例を用いて理論や知識を説明し、次に新たな具体例に当てはめて考える機会を設けている。また、理論や知識を正しく理解するためには、学生が興味を持ちやすくなる工夫も必要であると考え、理論や知識が発見された過程を紹介したり、身近な例や現象を取り上げて解説するようにしている。

・「動く力」を育てるための取り組み

動物の行動や人間と動物の共生、愛玩動物看護師の役割をテーマに、グループワークやディスカッションを取り入れることで、調査結果を発表する機会、自身の考えを表現する機会、他者と協調して活動する機会を設けている。特に、「キャリアデザイン基礎」では、愛玩動物看護師の資格を取得し、社会の様々な分野で活躍されている方に、学生がインタビューを行い、ポスター発表を行ったことで、学外の方とのコミュニケーションの場も経験することができた。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業の内容に合わせて、インタラクティブ投票ツールを用いたクイズ、調査課題、グループワーク、プレゼンテーション、ポスター発表などを取り入れている。

(2) ICTの教育活用

有

Azamoodleや學理を利用した小テストや課題を実施している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業内容や実施方法については、上記に記載した工夫をし、ただ知識を覚えるのではなく、理論を理解し応用できるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

A

授業ごとに小テストやレポートを課し、正解率を算出することで、理解度を把握するようにしている。基本的に次の授業で解説を行い、どの部分の理解が足りていないかを伝えるようにしている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業後の小テストやレポート、調査により自学自習を促しているが、復習が多いため、今後は予習部分にも力を入れていきたい。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業時間内に、学生に質問をしながら授業を進めているため、コミュニケーションを取るようになっている。また、授業時間外でも、質問を受けた場合には、できるだけ早く回答したり、別途時間を設けて解説するようにしている。

(5) 双方向授業への工夫

B

上記と重なるが、授業時間内に学生に質問をすることで、双方向授業を意識している。一方で、その時間が十分に取れない科目もあるため、今後工夫していきたい。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

2024年度より所属学科が変わり、担当科目が大幅に変更となったため、昨年度の授業評価アンケートをそのままあてはめることはできていない。しかし、グループワークの実施のような共通する部分については、今年度の授業にも反映させている。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

グループワーク時間の確保と、座学時間の確保（初年度のため、学生が理解できるよう授業進行スピードの調整が必要であった）のバランスに苦慮した。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

各回の配分を見直し、グループワークにも十分な時間が確保できるようにしたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

大学で学ぶことが、知識の暗記ではなく、知識の活用と新たな疑問の発掘になるよう、理論と応用・実践を組み合わせた内容が重要であると考えている。それにより、学生が意欲的に学び、成績向上につながると考えられる。これは、授業内容の工夫に限らず、研究活動でも得られるため、両者を関連付けて教育を進めていきたい。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特になし

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

できるだけ参加するようにしているが、開催時間の関係で参加が難しい場合は、後日オンラインで受講するようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・短期目標：具体的かつ比較的短期間で到達できる課題を与えることで、自ら取り組み、成功体験を積むことで、意欲が上がるような工夫をする。また、後輩を含め、他者に説明する機会をできるだけ多く設けることで、自らの考えを整理したり、自身が取り組んでいることへの理解を深めるようにし、知識の定着を目指す。
- ・長期目標：上記を通して、自ら疑問や課題を発見し、その疑問を解くための方法や対策を考案し、自ら実践したり他者との協働ができる人材を育成する。愛玩動物看護師の国家資格取得にとどまらず、その資格をもって社会で活躍できるような人材育成を目標としたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

各科目のシラバス、Azamoodleおよび學理（講義資料、動画教材、小テスト、レポート課題、学生評価を含む）、試験問題
研究室ゼミのプログレス資料・論文紹介資料